

# 2006 ANNUAL REPORT

特定非営利活動法人 **ハンガー・フリー・ワールド**

2006年4月1日

2007年3月31日

年次報告

 **hunger free world**

飢餓のない世界を創ろう

## 飢餓に直面する 15万2937人を支援しました。

### 海外の 活動

HFWは、飢餓に直面する人々が、「食べる」という人間としての基本的な権利を取り戻し、すべての人々が精神的な豊かさと希望を得られる世界にするため、貧しい地域を対象に開発事業を実施しています。

開発事業における基本的な方針は、HFWの支援が終了しても、永続的に飢餓のない状態が続くために、人々の自立を促すこと。そのために、栄養改善だけでなく、教育、保健衛生、収入創出、ジェンダー平等の推進、環境の6分野で、地域住民を主体とした事業を行っています。

2006年度は、支部を置くバングラデシュ、ウガンダで23の事業を、準支部を置くベナン、ブルキナファソ、インドネシアで11の事業を実施しました。

開発事業に加えてアドボカシー活動を精力的に展開。バングラデシュ支部は、ホワイトバンドをシンボルに世界90カ国で行

### 国内の 活動

HFWは、飢餓を自分自身の問題として行動するよう呼びかけ、多くの人々に気軽に参加できる機会を提供するなどの、国内の活動を展開しています。

2006年度は、これまでと同様に活動説明会、講演会などを実施。外部スタディツアーの受け入れも行い、多くの方に飢餓の現状やHFWの活動についての理解を求めました。

気軽にできる国際協力として、書損じハガキなどの回収事業も継続。「私たちの食と、世界の飢餓のつながり」をテーマにした講演会やパネル展示を行い、「食」を通じた新たな啓発活動の基礎を築きました。

青少年の主体的な活動の支援として、YEHジャパンによる海外YEHへの募金活動や広報活動に対してアドバイスを行った

われている貧困根絶キャンペーン「G-CAP」バングラデシュで、中心的な役割を果たしました。ウガンダ支部は、子どもの権利啓発事業を実施しました。

組織の再設計の一環として、準支部を置くインドネシアから撤退しました（3月）。同国の経済発展と5歳未満児死亡率の低下、またインドネシア準支部の資金調達能力の高さから、撤退を判断。同準支部は、これまでの経験をもとに、現地NGOとして活動を続けていきます。ブルキナファソ準支部は、開発事業の実績、同国の開発状況、本部の資金調達能力等の分析にもとづき、活動継続を決定（10月）。住民の自立を目指した5ヵ年計画を立て、住民主体の開発事業に着手しました。ベナン準支部は、会計書類や資機材の整備を行い、経験豊富な職員を新規雇用するなど、2007年度の支部昇格に向けての準備を整えました。

ほか、国連ミレニアムキャンペーン関係者を招いた講演会「世界のまずしさに未来を～ミレニアム開発目標達成に向けて～」(YEHジャパン主催)をサポートしました。

「ほっとけない世界のまずしさ」キャンペーン、TICAD市民社会フォーラム、「南」の子ども支援NGO能力強化委員会への参加、NGOの能力強化のための講師派遣や執筆活動などで、他団体との協力・連携および提言活動を強化しました。

組織運営に関しては、インターンとボランティアの活用を継続し、拡大する事業を、滞りなく推進することができました。組織の再設計の一環として実施された各国準支部の撤退や昇格準備にともない、本部における事務運営面での最終調整を行いました。



# 2008年G8サミットを 飢餓撲滅の ターニング・ポイントに

ハンガー・フリー・ワールド(HFW)は、2000年の発足以来、活動のゴールである飢餓の終わりに向かって、開発途上国での地道な開発事業に取り組んで参りました。2006年度は、5ヵ国で15万2937人を支援することができました。これも、HFWに対する、みなさまの物心両面にわたるご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。

さて、2008年7月、北海道・洞爺湖で、G8サミットが8年ぶりに日本で開催されます。世界の飢餓を終わらせることができるだけの富とパワーを持つ先進国の首脳が日本に一堂に会する2008年を、飢餓撲滅のターニング・ポイントとすべく、HFWは、他のNGOと連携して、さまざまなアドボカシー活動を行ってまいります。

先進国の首脳は、今こそ何を世界の優先課題とすべきかを、国益を超え、地球益という立場から考え、決断すべき時であると考えます。

人類史上、最古の、最大の問題である飢餓の終わりのために、HFWに対するより一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 ハンガー・フリー・ワールド  
理事長 河合政実



- ウガンダ共和国**
- 面積：24万1000km<sup>2</sup>
  - 主要産業：農業  
(コーヒー、綿花など)、  
鉱業(銅など)、  
工業(繊維など)
  - 人口：2780万人
  - 言語：英語、スワヒリ語、  
ガンダ語、他
  - 宗教：キリスト教60%、  
伝統宗教30%、  
イスラム教10%
  - 5歳未満児死亡率：  
1000人中136人
  - 1人あたりの国民総生産：  
280米ドル
  - 平均余命：49歳
  - 成人識字率：67%
- (参考資料：外務省ホームページ、  
ユニセフ「世界子供白書2007」)



教育と井戸建設、農業事業を継続。  
これまでの活動実績が、政府に高く評価されました。

2006年度は、教育と井戸建設、農業事業を継続しました。ワキソ県のピース小学校改修の最終工事として2教室を増築(7~10月)。これにより、校舍老朽化のために木の下で授業を受けていた生徒が、安全な環境で勉強できるようになりました。また、HFWが支援する小学校全6校で子どもの権利啓発事業を実施しました。

ブドウダ県のマンジャ技術学校で設備改善工事が完了し、住民のなかから選ばれた学校

運営委員会に、管理を引渡しました(2月)。今後は学校運営委員会と県が協議し、県内唯一の技術学校となる同校の運営・管理を県行政に引き継いでいきます。

井戸は浅井戸2基を増設。植民地時代に建設され、壊れたまま長年放置されていた深井戸も修理しました。

農業事業では、WEHは野菜栽培を、YEHはパイナップル栽培を実施。新事業としてトウモロコシ栽培・養鶏事業を開始しました。

また、ウガンダ政府とNGO登録覚書の更新を行ないました。通常は3年の更新期間が、今回の更新後は10年ごとの更新になりました。これは大変珍しいことで、これまでのHFWの活動実績が政府に高く評価された成果といえます。

運営面での今後の課題として、古くなって故障が多い車両の買い替えが挙げられます。また、経験豊富な職員が継続して働くことのできる環境を整えていきます。

開発事業  
一覧

- 井戸建設・管理研修
- 水と衛生調査
- 小学校校舎建設  
ピース小学校第三期建設・備品購入
- 子どもの権利啓発
- マンジャ技術学校設備改善
- トウモロコシ栽培・養鶏
- 青少年対象のパイナップル栽培 (YEH)
- 青少年対象の野菜栽培 (YEH)
- 女性対象の野菜栽培 (WEH)  
(旧称：女性対象のヒマワリ栽培)

開発  
事業例

青少年・女性対象の野菜栽培

YEHとWEHのメンバー約300名が、カブンバ区でそれぞれ実施した野菜栽培事業が完了しました(9月)。YEHは大角豆(ささげ)とトマト、WEHは大角豆を栽培。豆は土地を肥沃にするため、同じ土地に植えられるほかの作物にもよい影響を与えます。

また、メンバーの組織化を支援し、協同組合の重要性や運営方法などを伝える研修を実施。収穫物の共同管理などを通して、継続して農作物を出荷できるようになりました。

事業終了後は、YEHとWEHのメンバーによる組織を正式な農業協同組合として登録し、種子の共同購入や、出荷価格の団体交渉などに取り組む予定です。



子どもの権利啓発

HFWが支援する小学校全6校で、子どもの権利啓発事業を行いました。生徒だけではなく、先生や親が、子どもの権利を知ることにより、体罰がなくなるなどの成果がありました。また、子どもたちが授業中に積極的に自分の意見を表現するようになり、成績も大幅に上がりました。

名古屋瑞穂ロータリークラブ記念小学校と吉見百合枝記念小学校で開催した音楽祭(8月、3月)では、各校の生徒代表が子どもの権利学習の成果を発表。他の学校に通う子どもとのディスカッションや交流は、大きな刺激となったようです。





# バングラデシュ

バングラデシュ人民共和国  
 ●面積：14万4000km<sup>2</sup>  
 ●主要産業：縫製品・ニット製品産業、水産業、ジュート加工業、農業  
 ●人口：1億4049万人  
 ●言語：ベンガル語（国語）  
 ●宗教：イスラム教徒89.7%、ヒンズー教徒9.2%、仏教徒0.7%、キリスト教徒0.3%  
 ●5歳未満児死亡率：1000人中73人  
 ●1人あたりの国民総生産：470米ドル  
 ●平均余命：64歳  
 ●成人識字率：41%  
 （参考資料：外務省ホームページ、ユニセフ「世界子供白書2007」）



順調に各地域での事業を継続。

2021年までに飢餓を終わらせるというビジョンを、全国に呼びかけました。

活動する3郡40ヵ村で、教育や栄養改善などの14事業を継続しました。全国的なアドボカシー活動では、独立50周年を迎える2021年までに飢餓・貧困から解放された国を創ることを呼びかけるキャンペーン“ビジョン2021”を精力的に促進。全国の高校生に「2021年のバングラデシュ」をテーマとした作文コンテストを実施しました。さらに、“ビジョン2021ネットワーク”を設立。会員は100名を超え、今後の活動が期待されま

す。また、社会参画の機会が乏しい女性のための収入創出・交流イベントを開催（12月）。ジェンダーにも配慮したアドボカシー活動に取り組みました。

運営面では、1月の総選挙前に治安が悪化し、一時期職員の国内移動に支障があったものの、各事業を滞りなく進めることができました。会計業務では、通常の年1回の外部会計監査に加え、ダッカ事務所職員による地方

事務所の会計指導を2ヵ月ごとに実施。そのほか、本部が規定する会計ガイドラインをより効果的に活用するため、バングラデシュ支部の職務体制に合わせた詳細規程を作成しました。

また、HFWインドネシア職員との相互研修の実施、日本人支援者・インターンの受け入れなど、海外からの来訪者との交流を頻繁に行ないました。

## 開発事業 一覧

- 持続可能な農業普及のための農業訓練センター設置
- 啓発
- 小学校運営
- 女の子対象の奨学金（旧称：ハンガー・フリー・ヒロ・スカラシップ）
- 女性対象の高等教育奨学金（旧称：ハンガー・フリー・ウイメン・スカラシップ）
- 奨学金と学校支援
- 栄養改善のための環境整備
- 農村開発委員会およびウイメン・エンディング・ハンガー国内会議
- ビジョン・リーダーシップ・パートナーシップ促進啓発
- 学校給食
- 女性対象の収入創出および権利啓発
- 女性対象の起業無償支援（旧称：女性賞）
- 母子対象のヘルスケアセンター
- 寒波救済支援（YEH）

## 開発 事業例

### 持続可能な農業普及のための農業訓練センター設置

農業による地力低下など、近代農業の弊害に悩まされていたボグ郡で、有機農業訓練センターが完成しました（10月）。

完成前から有機農業の重要性を啓発し、技術研修を提供してきました。昔ながらの農法は時代に逆行するのではないかと疑問を感じていた住民たちの認識も徐々に変わり、有機農業への関心が高まっています。住民は、修了後もセンターに自発的に通い、ほかの住民と情報交換を行うなど、高い意欲を見せています。

今後は、研修対象者を現在の80名から200名に広げる予定です。



### 女性対象の起業無償支援

各地域のHFWの女性組織ウイメン・エンディング・ハンガー（WEH）が推薦する女性に「女性賞」を授与し、起業支援のための賞金を贈りました。

WEHのメンバーは、小売店や縫製事業などの起業のために融資を受けても、返済の負担が重く、事業を継続・拡大できない状況に置かれていました。そんな彼女たちの自助努力を生かそうと創設されたのが、返済の必要のない「女性賞」です。

2006年度は、6名が受賞。賞金はバングラデシュ支部が女性賞のために預金している銀行の利子でまかなわれるため、今後も持続的に運営することができます。





# ブルキナファソ

**ブルキナファソ**  
 ●面積：27万4200km<sup>2</sup>  
 ●主な産業：農業  
 （粟、とうもろこし、タロイモ、綿及び牧畜）  
 ●人口：1240万人  
 ●言語：フランス語（公用語）、モシ語、ディウラ語、グルマンチュ語、他  
 ●宗教：伝統的宗教57%、イスラム教31%、キリスト教12%  
 ●5歳未満児死亡率：1000人中191人  
 ●1人あたりの国民総生産：400米ドル  
 ●平均余命：48歳  
 ●成人識字率：22%  
 （参考資料：外務省ホームページ、ユニセフ「2007年世界子供白書」）



新たにハンガー・フリー・ゾーン（HFZ）を設置。  
 中期計画も完成し、住民の自立に向けた事業を実施しました。

組織の再設計の一環として、活動継続の是非が検討されていたブルキナファソ準支部。2006年9月の理事会で活動の継続が決定しました。これを受けて、2008年度の支部昇格を目標に運営体制を整備しています。2006年度は、今後の事業拡大を支えるため、一回り大きな事務所に移転しました。

開発事業では、乳幼児妊産婦対象の栄養改善事業（CREN）を継続しました。開始から2年

目、事業規模も徐々に拡大し、他地域からの視察も受け入れるほどになりました。保健センターでは、入院棟設置などの設備投資により、より多くの栄養不良児や、緊急を要する診察にも対応できるようになりました。

住民主体の開発を行うべく、ワムテング村、ゴムトアガ村、ウェドビラ村、ピシ村の4か村を1地区とし、HFZワゴウェビを設立しました。自立を目指した5ヵ年計画を立て、計画にもとづいた事業に着手。既存の住民組織ととも

に、収入創出を目的とした脱穀製粉機を設置し（8月）、養蜂事業も開始しました（2月）。収益の管理を効果的に行えるよう、HFZが会計処理マニュアルを作成し、住民組織に研修を提供しました。

また、ピシ村小学校では学校給食事業を開始しました（10月）。給食の提供が始まった新学期には、それまで175名だった生徒数が200名以上に増えるなど、子どもたちの栄養改善だけではなく、就学を促す成果もありました。

## 開発事業一覧

- 乳幼児と妊産婦対象の栄養改善（CREN）
- 脱穀製粉機設置・運営
- 養蜂
- 学校給食

## 開発事業例

### 脱穀製粉機設置・運営

ワムテング村に、穀物を脱穀し粉状にするための脱穀製粉機が設置されました（8月）。穀物を主食とするブルキナファソで、穀物の脱穀・製粉は女性の仕事。今まで女性たちは、臼や石板の上で脱穀・製粉するか、機械を利用するために6kmの道のりを徒歩で往復していました。脱穀製粉機の設置により、これらの重労働が軽減されました。

脱穀製粉機を管理・運営するために、住民による管理委員会が設立されました。彼らが利用料の管理を適切に行えるよう、簿記の研修を行いました。今後は、協同組合として持続的に運営できるよう、組織運営に関する研修を行います。



### 学校給食

活動地域で唯一のピシ村小学校には、家が遠いために朝食や昼食を家でとることができない子どももいます。お腹が空いては、授業に集中することができません。

そこで、HFZは学校給食の提供を開始（10月）。子どもたちが集中して授業を受けられるようになりました。また、ご飯を食べに家に帰らなくてもよくなった子どもたちは、その分の時間を予習や復習にあてられるようになりました。給食の提供に加え、持続的に給食を自給していくための菜園設置や、栄養管理に関する授業を行っていく準備として、教師や保護者会に対し研修を提供しました。





## ベナン共和国

- 面積：11万2622km<sup>2</sup>
  - 主な産業：農業（綿花、パームオイル）、サービス業（港湾業）
  - 人口：820万人
  - 言語：フランス語（公用語）
  - 宗教：伝統的宗教65%、キリスト教20%、イスラム教15%
  - 5歳未満児死亡率：1000人中150人
  - 1人あたりの国民総生産：510米ドル
  - 平均余命：55歳
  - 成人識字率：35%
- （参考資料：外務省ホームページ、ユニセフ「2007年世界子供白書」）



## 支部昇格にむけての準備が完了。 活動3年目になるベト村に幼稚園が開園しました。

2006年度は、識字教育とキャッサバ加工事業を継続しました。識字教育で、第二期の卒業生が誕生しました（1月）。キャッサバ加工事業では、事業の担い手となる女性グループが協同組合を結成して活動を継続できるよう、運営・会計についての研修を行ないました。研修中に、グループのメンバーたちのなかで、学んだことを共有するためには識字が重要だという気づきがありました。そのため、メンバーの発案によって全員が識字教育

を受けるというルールが決まりました。さらに、識字教室から新たな収入創出活動を行うグループが生まれるなど、事業が広がりを見せています。

2005年度に着手した幼稚園の建設が進められました。住民が一丸となり、夜明け前や農作業の前に水汲みや砂運びなどを行いました。そうした努力により、学期の始まりに合わせて幼稚園を開園することができました（10月）。現在、3～5歳の子どもたち約90

名が通っています。

運営面では、2007年度の支部昇格に向けた準備を実施。会計書類の整備や資機材の調達など、支部運営のための基盤を整えました。また、他のNGOで活動経験がある新しいフィールド担当職員を採用。より精度の高い事業のモニタリングを実施できるようになりました。

今後、事業の拡大に備えて、政府へのNGO登録も進めていきます。

### 開発事業 一覧

- 女性協同組合によるキャッサバ加工事業
- 青少年・成人対象の識字教育
- 幼稚園建設・運営

### 開発 事業例

#### 幼稚園建設・運営

小学校が1つしかないベト村に1棟3教室の幼稚園が完成しました（10月）。地元の若者3名を教員として採用しました。彼らはもともと公務員として小学校で教えていましたが、教育レベルを高めるためには幼児教育が重要であると認識。地元に戻り、HFWが提供する研修や住民との話し合いを通して、幼稚園教員として日々成長しています。

幼稚園では、子どもたちの日常生活や進路に生かせるような内容でカリキュラムを作成。衛生教育としての手洗い指導や、将来を見据えたフランス語学習などに力を入れています。今後は、先生への研修を継続し、さらなる教育の質の向上を図ります。



#### 青少年・成人対象の識字教育

ベト村で、2004年から実施されていた成人識字教育事業。第二期に入った2006年度には、15～50歳の60名が識字教室に通いました。3教室中、1教室はヤシの葉で作った簡易的な教室を使用しており、雨季の間は授業の妨げになることもありましたが、無事に課程を修了。20名が最終試験に合格し、修了証書を手に入れました。

盛大に行われた修了証書授与式には、村中から参加者が集まりました（2月）。同じ識字教室に通っていたことをきっかけに、収入を得るための石鹸づくりをする住民グループが発足。教室で習った計算や読み書きを、さっそく実践に移す住民の姿も見受けられました。



# 2006年度 開発事業一覧

プロジェクト名/対象者数/期間/2006年度支援額[単位:千円]  
**a.** 会費・寄付から **b.** 補助金・助成金額、助成団体名  
 (—:費用がかからなかった、または現地調達、または前年度以前の送金による事業、  
 YEH: 青少年組織ユース・エンディング・ハンガーによる実施  
 WEH: 女性組織ウィメン・エンディング・ハンガーによる実施)



## バングラデシュ

- 持続可能な農業普及のための農業訓練センター設置/80名/  
2006年4月～2006年11月/—
- 啓発/多数(啓発事業の性質上、人数特定は不可)/2006年4月～2007年3月/a.810
- 小学校運営/300名/2006年4月～2007年3月/a.1,158
- 女の子対象の奨学金(旧称:ハンガー・フリー・ヒロ・スカラシップ)/39名/2006年4月～2007年3月/—
- 女性対象の高等教育奨学金(ハンガー・フリー・ウィメン・スカラシップ)/6名/2006年4月～2007年3月/—
- 奨学金と学校支援/20名、39校/2006年4月～2007年3月/a.1,695
- 栄養改善のための環境整備/500世帯、公共施設20ヶ所/2006年4月～2007年3月/a.1,432
- 寒波救済支援(YEH)/600世帯/2006年12月～2007年2月/a.209
- 農村開発委員会およびウィメン・エンディング・ハンガー国内会議/41名/2006年12月～2007年3月/a.113
- ビジョン・リーダーシップ・パートナーシップ促進啓発/150名/2006年5月/a.1,881
- 学校給食/3校/2006年4月～2007年3月/a.517
- 女性対象の収入創出および権利啓発/400名/2006年4月～2007年3月/a.157
- 女性対象の起業無償支援/6名/2006年4月～2007年3月/a.424
- 母子対象のヘルスケアセンター/11,000世帯/2006年4月～2007年3月/a.4,237

## ウガンダ

- 小学校校舎建設/370名/2006年7～10月/a.3,250
- 子どもの権利啓発/2,000名/2006年4月～2007年3月/—
- 技術学校設備改善/500名/2005年11月～2007年2月/—
- 女性対象の野菜栽培(旧称:女性対象のヒマワリ栽培)(WEH)/2006年4～9月/—
- トウモロコシ栽培・養鶏/54世帯/2007年3月～/a.446
- 井戸建設・管理研修/2,600名/2006年7～8月、2006年9月/a.3,883
- 水と衛生調査/9,000名/2006年11月/a.90
- 青少年対象のパイナップル栽培(YEH)/2006年8月～/a.238



## ベナン

- 女性協同組合によるキャッサバ加工事業/30名/2004年12月～/a.1,508
- 成人・青少年対象の識字教育/60名/2005年1月～/a.1,347
- 幼稚園建設・運営/90名/2006年10月～/a.2,469/



## ブルキナファソ

- 乳幼児と妊産婦対象の栄養改善(CREN)/17,126名/2005年10月～/a.2,547
- 脱穀製粉機設置・運営/850名/2006年8月～/a.1,518
- 養蜂/25名/2007年2月～/a.558
- 学校給食/230名/2006年10月～/a.2,384

## インドネシア

- ベビー・デー・ケア・センター/180名/(1994年)～/—
- 結核患者対象の栄養改善/11,456名/2006年1月～/協力:世界食糧計画
- 地域保健所における栄養回復/29,373名/2006年1月～/協力:世界食糧計画
- 衛生環境改善・幼児教育/300名/2006年9月～/a.1,664





# インドネシア

## インドネシア共和国

- 面積：189万km<sup>2</sup>
  - 主な産業：鉱業（石油など）、農業（米、ゴムなど）、工業（木材製品など）
  - 人口：2億1700万人
  - 言語：インドネシア語
  - 宗教：イスラム教87.1%、キリスト教8.8%、ヒンズー教2%
  - 5歳未満児死亡率：1000人中36人
  - 1人あたりの国民総生産：1280米ドル
  - 平均余命：68歳
  - 成人識字率：90%
- （参考資料：外務省ホームページ、ユニセフ「2007年世界子供白書」）



2007年3月末をもって、活動を撤退。

準支部が現地のNGOとして活動を継続するよう能力強化研修を提供しました。

組織の再設計の一環で、準支部を置くインドネシアでの支援活動から撤退しました（3月）。本部では、撤退までの1年間、同準支部が現地NGOとして活動を継続できるよう、能力強化のプログラムを提供しました。組織の課題を洗い出すためのワークショップ（4月）と、バングラデシュ支部で行った相互研修（9月）の成果を受け、同準支部が今後、現地NGOとして実施する住民参加型事業の立

ち上げを支援しました（11月）。

経済発展を遂げつつも、都市部の貧困層の問題や自然災害の被災者問題などを抱えるインドネシア。求められているNGOの役割も大きく変化しています。このような社会の変化を読み取り、効果的な事業を行うためには、透明度の高い運営と、柔軟にアイデアを取り入れることのできる組織体制が必要です。同準支部が今後よりよい活動を行っていった

め、組織の強みを伸ばし弱点を補う研修を、職員が一丸となって組み立てました。その後、これらの研修の成果を実践するための事業を、本部が支援してきました。

その他の開発事業では、世界食糧計画（WFP）との共同事業である、結核患者対象の栄養改善事業、地域保健所における栄養回復事業を継続しました。

### 開発事業 一覧

- ベビー・デイケア・センター
- 結核患者対象の栄養改善
- 地域保健所における栄養回復
- 衛生環境改善・幼児教育

### 開発 事業例

#### 能力強化プログラム

理想とする組織像を明確にするため、AIという手法を使ったワークショップを実施（4月）。これにより、多様なパートナーと共に、住民を主体とした開発事業を行うNGOへ変化していく、という組織の方向性が明確になりました。

その後、3人の準支部スタッフがバングラデシュ支部受け入れによる相互研修に参加（9月）。事業地を視察し、新しく事業を始める地域での住民との話し合いに参加するなど、住民の主体性を重視したファシリテーション技術などを体感しました。帰国直後に職員全員を集め、視察した内容を共有することで、3人が学んだことを組織全体の事業実施、運営方法に生かす体制を作ることができました。

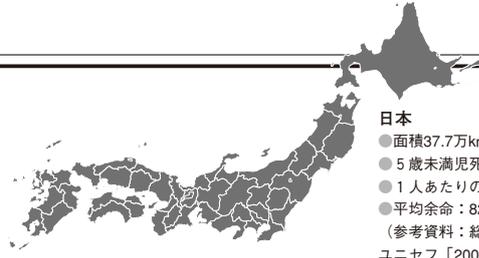


#### 衛生環境改善・幼児教育

HFWが支援する最後の事業が、ジャカルタ郊外のデボック市で開始されました。同地域は世界食料計画（WFP）と協力し、安価で米の提供を行ってきた地域です。培ってきた住民との信頼関係を土台に、食料援助に頼らない、持続的な事業を立ち上げることを決めました。

バングラデシュ支部との相互研修（9月）の経験をもとに、事業地を選定し住民たちと話し合いを続けた結果、125世帯を対象に衛生的なトイレの設置を行うことを決定（11月）。今後は、現地NGOとして同事業を継続し、小規模貸付、保育所の立ち上げ、保育所に通う子どもたちに衛生管理や保健衛生についての指導を行っていきます。





### 日本

- 面積37.7万km<sup>2</sup> ●人口：1億2753万人
  - 5歳未満児死亡率：1000人中4人
  - 1人あたりの国民総生産：38980米ドル
  - 平均余命：82歳 ●成人識字率：-%
- (参考資料：総務省ホームページ、ユニセフ「2007年世界子供白書」)

## 講師派遣／エンディング・ハンガー・ゲーム

学校や団体からの依頼で、飢餓の現状やHFWの取り組みを紹介するための講師や、飢餓のない世界をつくる疑似体験ゲーム「エンディング・ハンガー・ゲーム」実施のための職員とボランティアを派遣しました。また、学校での国際協力への協力として、中学生の事務所訪問を受け入れました。

- 講演会、エンディング・ハンガー・ゲームなどの講師派遣 7回
- 中学生徒などによる事務所来訪 4回



「アフリカ子どもの日」でエンディング・ハンガー・ゲームを実施（5月）

## 青少年の主体的な活動の支援 — YEH

YEHジャパンでは、中学生から大学生を中心とした若者たちが全国6地域で活動しました。年2回の全国会議（8・3月）で活動を創作し、日本各地でチャリティイベントや募金活動を実施。飢餓の現状やYEHの活動を伝えるとともに、海外活動国への財政的支援を行いました。また、会報「YEHラブ」（隔月）を発行しました。

海外活動国では、YEHバングラデシュが国内会議を開催（7月）したほか、YEHウガンダがバイナッブル栽培プロジェクトを開始（8月）。YEHベナン、YEHブルキナファソでもHFWと連携して事業の補佐にあたるなど、それぞれの国の若者が、飢餓をなくすための活動に取り組みました。

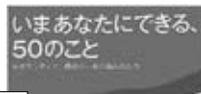
国連ミレニアムキャンペーンのミナル・ピンブル氏を招いての講演会を開催（8月）



都留文科大学学園祭にて。2006年度に新設されたYEH山梨が、ウガンダ料理の模擬店を実施



## 情報発信



ボランティアや国際協力について書かれた書籍がHFWを紹介

ホームページ



写真で伝えるハンガー・フリー・ニュース

ポスター



年次報告



ハンガー・フリー・ニュース

インターネットを中心とした各種媒体によって、活動紹介、入会・寄付の呼びかけ、ボランティア募集、イベント告知を積極的に行いました。

「年次報告書」（10月）、情報誌「ハンガー・フリー・ニュース」（4・7・10月）を73号から75号まで発行。ポストカードによる「写真で伝えるハンガー・フリー・ニュース」（5・11月）を13号から14号まで、メールマガジンを月刊で発行しました。1カ国を選んで支援する会員、ハンガー・フリー・パートナーへの報告も随時行いました。認知度向上を目的とした取り組みでは、資料請求ハガキ付きのポスターの掲示を行いました。

高まる市民社会への期待。さまざまな機会に多くの方と力を合わせて活動しました。

- チャリティイベント開催・協力 32回 ●活動説明会開催 38回
- 活動報告会・学習会・交流会の開催 15回 ●国際協力などのイベントへの参加 12回



## イベント

	1	2	① CARE-WAVE チャリティミュージカルに参加(3月) ② 異国の風号 地球旅行 でかけヨット! 第1回「ブルキナファンの旅」(9月)
		3	
	4	5	6
			③ HFW活動説明会(毎月開催) ④ 「アフリカンフェスタ 2006」(外務省主催)にブースを出展(5月) ⑤ ムリムティア ウガンダ(写真は料理教室編)(4月、6~9月、11月、1月) ⑥ ワールドカルチャーフェスティバルに参加(1月)

飢餓の現状やHFWの活動を伝え、行動を呼びかけるために、活動説明会やイベントを各地で開催。多くのボランティアの自発的なイベントへの協力も行いました。社会の国際協力への関心の高まりとプログラムの充実、広報の成果もあって、多くの市民の参加を得ました。

ボランティアが企画するイベントは、バングラデシュカレーのチャリティパーティ、ウガンダ料理を学ぶ料理教室、フリーマーケットへの出展、写真展など、支援国の飢餓の現

状とともに文化も知ることができる多彩な内容で、幅広い層に国際協力について知ってもらう機会となりました。

「アフリカ子どもの日」(HFW、アフリカ日本協議会、ACE主催、6月)、「フジロックフェスティバル NGOビレッジ」への出展 (SMASH Corporation主催、7月)、「異国の風号 地球旅行 でかけヨット! 第1回『ブルキナファンの旅』」(夢の実験室 wal主催、HFWほか3団体共催、9月) など、他団体との連携を推進。また、世界的な貧困根絶キャンペーン

「G-CAP」の日本版「はっとけない 世界のまずしさ」キャンペーンや、「TICAD市民社会フォーラム」、「2008年G8サミットNGOフォーラム」など、政策提言を行うネットワークにも積極的に参加しました。

「アフリカンフェスタ2006」(外務省主催、5月)、「グローバルフェスタJAPAN2006」(グローバルフェスタJAPAN2006実行委員会主催、10月)をはじめ、多数の国際協力関連のイベントにも出展しました。

特定非営利活動法人  
ハンガー・フリー・ワールド

2006年度決算報告書

収支計算書

2006年4月1日～2007年3月31日

[単位：千円]

資金収支の部

I 経常収入の部		
1 会費収入	32,349	
2 寄付金収入	60,360	
3 スタディツアー参加費収入	958	
4 その他の収入	690	
経常収入合計		94,357

II 経常支出の部		
1 事業費		
海外支援事業費	54,960	
国内活動事業費	21,860	
スタディツアー事業費	958	
2 管理費		
	17,887	
経常支出合計		95,665
経常収支差額		-1,308

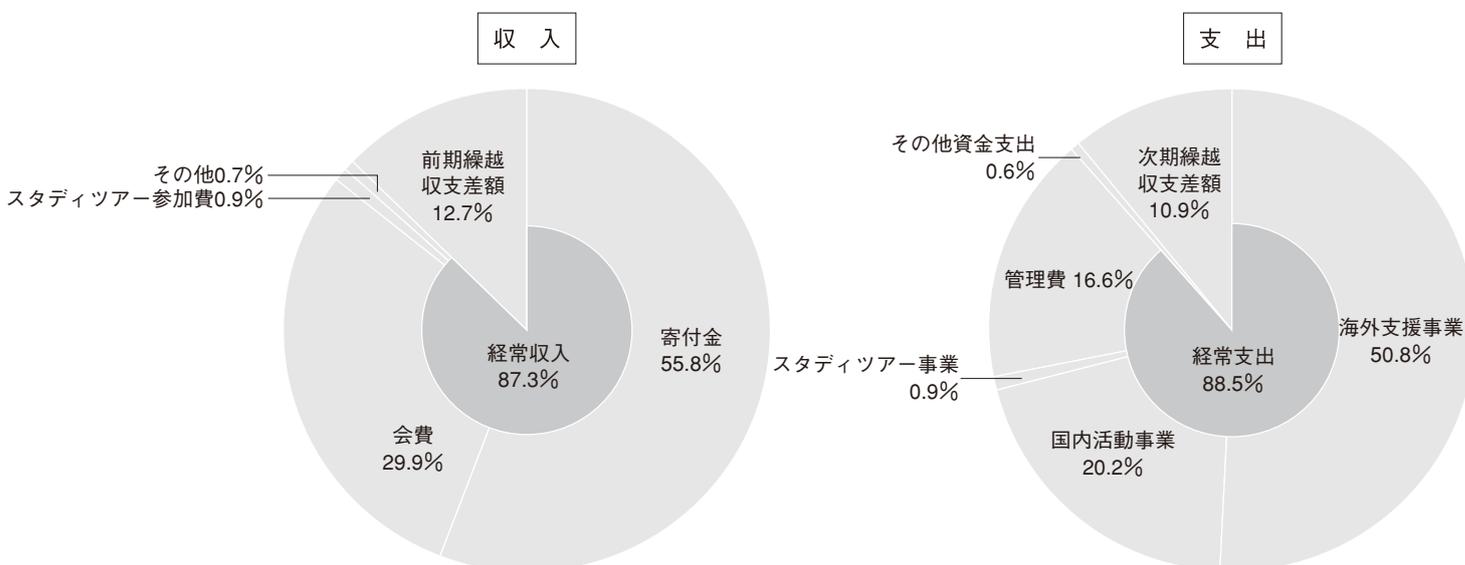
III その他資金収入の部		
保険積立金取崩収入	0	
その他資金収入合計		0

IV その他資金支出の部		
器具備品購入支出	388	
保険積立金支出	246	
その他資金支出合計		634
当期収支差額		-1,942
前期繰越収支差額		13,777
次期繰越収支差額		11,835

正味財産増減の部

V 正味財産増加の部		
1 資産増加額		
保険積立金増加額	246	
器具備品増加額	388	
増加額合計		634
正味財産増加合計		634

VI 正味財産減少の部		
1 資産減少額		
当期収支差額	1,942	
器具備品除却損	83	
器具備品減価償却額	95	
長期前払費用減少額	32	
減少額合計		2,152
正味財産減少合計		2,152
当期正味財産増減額		-1,518
前期繰越正味財産額		16,848
当期正味財産合計		15,330



# 支援者の拡大

全国から寄せられた書損じハガキを仕分けするカウントボランティアのみなさん



気軽に国際協力に参加していただけるプログラム「書損じハガキ回収キャンペーン」を今年も継続しました。第5回（2006年1月～5月）では、個人6865名、企業・団体77組織のみなさまから書損じハガキや中古CDなどが寄せられ、換金した結果、過去最高の1933万円1156円となりました。第6回も2007年1月に開始し、第5回を上回る勢いの支援が寄せられています。

2006年度は、企業とのチャリティイベントを数多く実施したほか、ノースウエスト航空のマイルを寄贈できる「エアケアチャリティプログラム」では、修学旅行で集められた大量のマイルを寄

付していただきました（2月）。

設立以来の課題である会員拡大にも精力的に取り組みました。特に法人会員は19社から29社に拡大。前年度まで減少傾向にあった会員数・会費収入は、ともに増加に転じました（会員数前年比101%、会費収入前年度比104% ※年度末時点での会員数を比較）。

しかし、申請の遅延により補助金が獲得できなかったことが影響して、全体収入は9434万円（前年度比92%）となり、次年度への課題として残りました。

会員数 1203名	ハンガー・フリー・パートナー…………… 102名
	グローバル・ファミリー………… 一般/902名 学生/170名
	法人…………… 29社
(2006年度内在籍数)	
寄付者数	個人・企業・団体…………… 326名
	ハンガー・フリー・サポーター含む



NECソフト株式会社で実施されたチャリティ・カイロプラクティック。参加料が寄付となった

九州女子高等学校より海外修学旅行で得られた160万マイルが寄付された。職員の海外渡航の費用削減に役立つ



# 組織運営



1泊2日の役員員の合宿。参加者全員の適性分析や業務全般の見直し、深夜まで様々なテーマで討論が行われた。

インターンと専門的な技術を活かしたボランティア、多くの事務作業ボランティアの参加によって、経費削減のみならず質の高い事業を行うことができました。各ボランティアグループも、自主的に多数のイベントを企画しました。

会計の精度や透明性を高めるために、本部の外部会計監査を初めて実施したほか、各支部でも外部・内部会計監査を、準支部では内部会計監査を実施しました。組織の再設計の一環として、準支部を置くインドネシアから撤退しました。撤退にあたり、現地NGOとして住民参加型の事業をより効果的に行っていくよう、HFWの活動で最も成果をあげているバングラデシュ支部において相互研修を実施しました。

また、ブルキナファソ準支部の活動継続を決定し、ベナン準支部の2007年度の支部昇格に向けた、事業や事務運営面での本部における最終調整を行いました。

広報業務においては、体制が整わず、各種発行物の発行が遅れるなど、次年度への課題が残りました。

役員員の合宿を行い、本部の業務全般を見直し、関連業務の統一や重複作業の削減を行い、より効果的な業務体制を整えました（11月）。

人  
材

正会員……………	46名
役員……………	理事10名・監事1名
職員……………	専従9名・非専従1名
インターン……………	16名
ボランティア	
・ハンガー・フリー・クラブ……………	9クラブ
ハンガー・フリー・ワールド長野	
キッズ・エンディング・ハンガー	
ノボディゴント	
ハンガー・フリー・OKINAWA	
TTV Webale Foundation	
ハンガー・フリー・いけばな小原	
ハンガー・フリー・板橋	
ハンガー・フリー・フリマ倶楽部	
YEH愛知 OBOG会	
・事務作業（登録数）……………	37名
・翻訳・通訳（登録数）……………	41名
・イラスト・デザイン・記者……………	9名
・バングラデシュチーム……………	23名
・ベナンチーム……………	8名
・ウガンダチーム……………	17名

(2006年度のべ数)

\*その他、多くの方にさまざまなご協力をいただきました。

## 概要 (2007年7月現在)

私たちは今、飢餓のある世界にいます。飢餓が原因で亡くなる子どもは5秒に1人、空腹のまま眠りにつく人は8億5000万人……。

ハンガー・フリー・ワールドは、飢餓のない世界を創るために活動する、特定の思想・宗教・政治的意志から独立した市民組織です。目指すのは、この地球に生まれてきたすべての人が飢えることなく、精神的にも豊かで、希望を持てる世界を創り出すこと。

私たち一人ひとりが飢餓のある世界に暮らしていると認識し、共にビジョンを創作し、協力して働くという

「共創協働」の理念のもと、開発途上国では、教育、医療、職業訓練、農業指導などを行い、貧しい人々の自立を支援しています。

世界中においては、飢餓を自分の問題として考え、行動することを市民に呼びかけています。

日本では、イベントや飢餓の現状を学ぶシミュレーションゲームの開催、学校への講師派遣などを行っています。

設立は1984年4月。アメリカに本部を持つNGOの日本支部として

活動を開始しました。2000年6月には、日本に本部を置く国際協力NGOとして、

- ① 途上国における開発事業の本格的な実施、
- ② 次世代を担う青少年の主体的な貧困撲滅活動の支援継続、
- ③ 市民活動としてより広い層の人々への参加の働きかけ、などを行うために独立、組織変更しました。

2000年9月には特定非営利活動法人の認証（内閣府）を受け、現在アジア・アフリカの5カ国で活動しています。



### ●活動国 5カ国

#### ●本部

〒102-0072  
東京都千代田区飯田橋3-11-24笹岡ビル3階

#### ●国内支部事務所

横浜  
〒220-0072  
神奈川県横浜市西区浅間町3-222  
名古屋  
〒466-0059  
愛知県名古屋市昭和区福江2-13-1  
京都  
〒602-0898  
京都府京都市上京区相国寺門前町708

#### ●海外支部

バングラデシュ、ベナン、ウガンダ

#### ●準支部

ブルキナファソ

### ●役員

理事長	河合政実	株式会社テレナコーポレーション代表取締役社長	理事	渡瀬のり子	TICAD市民社会フォーラム理事/ 株式会社テクノ・スタッフチーフアドバイザー
副理事長	齊藤恵一郎	住和不動産株式会社代表取締役		渡邊清孝	特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド事務局長
理事	犬島由香里	株式会社井上技研専務取締役	監事	上島鋭一	株式会社上島総合経営事務所取締役
	星野直	株式会社丸進不動産代表取締役社長			

(役職ごと50音順)

## 貸借対照表

2007年3月31日現在

[単位：千円]

資産の部		
1 流動資産		
現金	116	
普通預金	7,592	
未収入金	8,888	
前払金	144	
仮払金	360	
貯蔵品	42	
流動資産合計		17,142
2 固定資産		
器具備品	1,895	
減価償却累計額	-1,362	
電話加入権	197	
差入保証金	752	
長期前払費用	3	
保険積立金	2,011	
固定資産合計		3,496
資産合計		20,638

負債の部		
1 流動負債		
未払金	5,030	
預り金	277	
流動負債合計		5,307
2 固定負債		
		0
固定負債合計		0
負債合計		5,307

正味財産の部		
前期繰越正味財産額	16,848	
当期正味財産増減額	-1,518	
正味財産合計		15,330
負債及び正味財産合計		20,637

### 2006年度監査報告書

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド2006年度  
決算報告書は監査の結果、適正にして妥当であることを認めます。

2007年6月13日 監事 嶋 鏡一

## 事業費支出の内訳

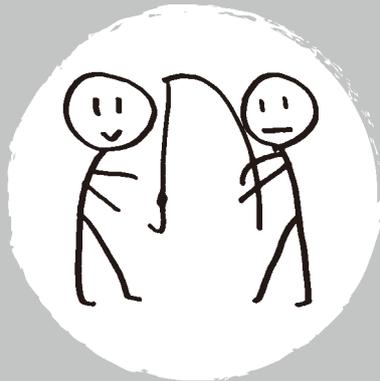
1 海外支援事業費		
持続可能な農業普及のための農業訓練センター設置	Bangladesh	2,759
啓発	Bangladesh	810
小学校運営	Bangladesh	1,158
奨学金と学校支援	Bangladesh	1,695
栄養改善のための環境整備	Bangladesh	1,432
寒波救済支援	Bangladesh	209
農村開発委員会およびウィメン・エンディング・ハンガー国内会議	Bangladesh	113
ビジョン・リーダーシップ・パートナーシップ促進啓発	Bangladesh	1,881
学校給食	Bangladesh	517
女性対象の収入創出および権利啓発	Bangladesh	157
女性対象の起業無償支援	Bangladesh	424
母子対象のヘルスケアセンター	Bangladesh	4,237
小学校校舎建設	Uganda	3,250
トウモロコシ栽培・養鶏	Uganda	446
井戸建設・管理研修	Uganda	3,883
水と衛生調査	Uganda	90
女性協同組合によるキャッサバ加工	Benin	1,508
識字教育	Benin	1,347
幼稚園建設	Benin	2,469
乳幼児と妊産婦対象の栄養改善	Burkina Faso	2,547
学校給食	Burkina Faso	2,384
脱穀製粉機設置・運営	Burkina Faso	1,518
養蜂	Burkina Faso	558
衛生環境改善・幼児教育	Indonesia	1,664
支部運営費		10,129
準支部運営費		6,801
ユース・エンディング・ハンガー活動費		974
合計		54,960

2 国内事業費	
広報	3,239
啓発	2,458
資金調達・募金活動	15,226
ユース・エンディング・ハンガー・ジャパン活動費	937
合計	21,860
3 スタッティア事業費	
Bangladesh スタッティア	

## 管理費支出の内訳

人件費	13,289
居住費	1,362
事務費	927
通信費	526
旅費交通費	602
報酬等	578
年会費	133
その他	470
合計	17,887

※特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドは「公益法人会計基準」に基づいて会計処理および財務諸表の作成を行っています。  
※資金の範囲には、現金・預金・未収入金・前払金・仮払金・貯蔵品・及び、未払金、預り金を含めます。  
※特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドは東光監査法人による外部監査を受けており、監査報告書を受領しております。



貧しい人々が、自分たちの力で  
生活を改善できるよう手をかしてあげれば、  
私たちの支援が何倍にも生きてきます。



2006年度版年次報告 2007年10月1日発行

発行人 特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド理事長 河合政実

編集人 内山綾子

編集 笠原由晶

立山誓一（ボランティアスタッフ）

制作 川村昌（ボランティアスタッフ）

印刷 島津印刷株式会社

発行所 特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-11-24 笹岡ビル 3階

TEL 03-3261-4700 FAX 03-3261-4701

平日10:00-21:00 土・日・祝10:00-18:00

E-MAIL [hfwoffice@hungerfree.net](mailto:hfwoffice@hungerfree.net)

URL <http://www.hungerfree.net/>

寄付金振込先 三菱東京UFJ銀行 神保町支店（普）1053953

郵便振替 00130-6-192373

口座名 ハンガー・フリー・ワールド

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます

